

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の定着に差があり、個人差が大きい。 ・話す、聞く力の伸長が必要である。 ・自分の考えや思ったことを文章で書き表すことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を工夫すると共に、ペア学習やグループ学習を意図的に組み入れ、主体的に学習に取り組めるようにしていく。 ・話を聞くめあての意識化を図り、最後まで聞くことを指導していく。 ・自分の考えや思いが明確になるように文章の構成を考えさせ、手本文を参考にさせながら、文章を書かせる。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の事柄を関連付けて読み取ったり、整理して自分なりに再構成したりすることに慣れていない。 ・課題解決に必要な資料を集めたり、データから読み取ったりする力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見方を伝えた上で全員で資料の確認をし、適宜活用していく場面をつくる。 ・児童の生活に即した身近な資料から具体的な事実を読み取り、その事実から自分の考えをもたせる。それをもとに、適切に判断していく学習活動を意図的・計画的に取り入れる。 ・教科書や資料集以外の最新のデータや映像などを複数用意するなど、児童が興味をもてるような資料を精選し、提示する。また、児童がタブレット等を活用し、集めたいいくつかの資料を関連付けて考える必要性のあるめあてを設定する。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読み取る読解力に課題がある。 ・生活と結びつきが薄い題材が問題に出てくると、課題解決で躓くことがある。 ・自分の考えや思ったことを文章で書き表したり、言葉にして相手に伝えたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科とも関連づけ、児童には、語彙を増やし注意深く読む習慣をつけさせ、問題文中にある課題解決のために必要な情報（分かっていること、求められていること）を明確にしてから課題に取り組ませるようにする。 ・自分の考えを図や式、言葉を使ってノートにまとめさせることで、考えを相手に分かりやすく伝える力を養うと共に、自分の理解を深める指導をしていく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験の目的や方法について考えていなかったり、結果が得られたことだけで満足してしまったりする傾向がある。基本概念の暗記だけでなく、その結果における共通点や相違点などに気付かせ、科学的概念を導き出す経験が必要である。 ・自分の考えを的確に表現したり、他者に分かりやすく伝えたりすることに課題があり、全体の場で発表するだけでなく、出てきた考えを活発に交流し合う時間の確保が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験に際して、すでにもっている知識・経験から結果の予想をする活動を確保し、見通しをもって考えさせる。仮説や考察の話形や実験の手順フローチャートを提示し、本時の学習と既習の内容を関連付けることで様々な視点で考えられるようにする。 ・グループ内での発表の時間を設定し、自分の考えを表現し、それに対して議論する機会を多くもつ。 ・実験や観察で、できるだけ「本物を見せる」機会を作り、知識の裏付けをもたせるようにする。 ・ICT 機器で学習の理解を視覚的に補助したり、学び合い・伝え合うツールとしたりして活用する。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが5類になったため、状況を見ながらではあるが、体験活動や交流活動を活発に行えるように計画を立て直す必要がある。 ・児童の気付きや問いを生かして次の活動に発展させていくことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画を見直し、体験活動や交流活動を増やして計画する。 ・活動のめあてを明確にし、児童の気付きを様々な方法で表現できるようにする。観察カードの構成、記入ポイントの提示、表現方法の選択性など、様々な工夫をする。 	

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の内容に沿って進めていて、児童も楽しく意欲的に学習している。昨年度は蔓延防止等重点措置発令に伴い歌唱の活動はゆるやかに進めてきたので、今年度は歌唱の技能を高めていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が音楽表現を友達と協力しながら工夫し、聴き合ったり歌ったりする。歌詞や旋律の良さを大切に、気持ちをこめてのびのびと歌ったりできるような姿を目指した指導を行う。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも全体としては楽しく学習しようとする姿が見られるが、平面作品や立体作品によって表現意欲に差が出る。友達の多様な表現を認め、自分の良さも見つけられるよう鑑賞活動をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの活動や作品を見て良さや特徴を伝え合ったり、身近な作品の表現方法を語りあったりする中で、自分の表現の良さや特徴に気づき、自信をもって次の課題へ取り組めるようにする。また、制作の中でそれぞれの良さを教師が称賛する。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・布を用いた製作の指導では、生活体験や手先の器用さに差が見られ、グループ活動などで教え合いすることが望ましい。 ・家庭での体験の個人差が大きく、学習活動での話し合い活動や意見交換などでも差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画等を活用し、技能のポイントを押さえる。 ・基礎的な縫い方等は、毎時間取り入れ、定着できるようにする。 ・家庭にも呼びかけ、家庭での体験を充実してもらうようお願いする。また、学校でも体験活動を充実させ、家庭で取り組むよう声かけをする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びを好む児童もいるが、体を動かすことが苦手な児童は、運動に消極的になりがちである。 ・運動経験が少ない児童や、運動経験に偏りがある児童が多く、技能面での偏りが見られる。 ・自分の体の状態や動かし方が感覚的につかめなかったり、理解できなかったりする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことの楽しさを全員が味わえるような指導法を工夫する。例えば、主運動につながる運動として、補助的な運動を各単元で取り入れる。簡単な動きや楽しみながら感覚作りができる運動を経験させる。 ・体づくり運動として、授業内で多様な動きを作る運動(遊び)を多く取り入れ、様々な体の動かし方、様々な用具の操作を取り入れ、運動経験の幅を広げる。 ・グループ活動での教え合いやスモールステップでの活動を通して、運動の特性に応じた技能が身に付けられるようにする。 ・ICT 機器を活用し、自分の動きを客観的に捉えたり、よい動きを見合ったりする活動を積極的に取り入れる。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な単語や基本的な会話の表現の定着を図る指導に課題がある。 ・日本語ではない言語に対して馴染みがなく実際に使うことをためらっている児童への指導に課題がある。 ・英語の発音の違いを聞き取ったり、大文字・小文字を正しく書いたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語や簡単な表現を使ったゲームを繰り返し行い、知識を定着させ、英語の表現を使って友達と会話したり、発表したりする機会を多く設定し、一人一人がしっかりと表現できるような指導を行う。 ・日本語と英語の違いに注目させたり、日本語の中に溶け込んでいる英語を取り上げたりすることで、言葉のおもしろさを感じさせる。 ・ALTの発音を聞き取り正しく書き写す活動や、自分が本当に伝えたいことを英語の単語や文章で書く活動を行う。 	